

令和 2 年度 第 2 回学校関係者評価委員会 結果報告

1. 日 時 令和 2 年 12 月 4 日（金） 13:30～15:30

2. 場 所 白河厚生総合病院付属高等看護学院

3. 会議の概要

1) 学校関係者評価委員の意見交換

(1) 第 1 回 学校関係者評価結果等からの意見交換

2) 自己評価委員からの報告

(1) 令和 2 年度 前期の状況

①学生の状況

②新型コロナウイルス感染症に関わる学校運営の状況

③学内実習プレゼンテーション

基礎看護学実習 I

成人看護学実習 II 及び成人看護学実習 III

(2) 成績管理における GPA 導入

(3) 令和 2 年度 前期収支状況

(4) 令和 2 年度 後期の計画

(5) 新型コロナウイルス感染症に関する学校安全対策

(6) 2022 年度 第 5 次カリキュラム改正検討計画

(7) その他

3) 学内案内

4) 学校関係者評価委員からの対話による評価

4. 学校関係者評価委員からの対話による評価（ご意見・ご質問）および現状と課題

学校関係者評価委員の評価	現状と課題
1) コロナ禍での授業・実習における授業評価はどうであったか	<p>■例年通り授業評価を実施しており、結果は業者に依頼中である。今年度は、感染対策としてオンラインや課題学習など遠隔授業を取り入れた。学生からは特に意見はなかったが、講師からは学生の反応が見えにくい、課題をタイムリーに確認できないなどの意見があった。</p> <p>■学内実習においては、病院実習と同等の学びが得られるように学習内容を検討して、評価項目は変更せず授業評価を実施した。その結果、評価は昨年と大きな差はみられなかった。今後も学内実習になる可能性があるため、今回の結果を検証し対策を講じていきたい。</p>
2) 実習期間・時間の短縮により技術習得状況はどうであったか	<p>学内実習で実施可能な技術は、紙上事例や病院実習で受け持った患者の事例を活用し、教員が模擬患者となり、「技術試験」を実施した。その結果、臨地実習で 3 年生までに到達しなければならない技術項目は全員が合格することができた。</p> <p>しかし、4 名の学生が最後の総合実習で「技術試験」を受ける状況となった。例年は 1～2 名であることから、多少影響はみられたと考える。</p> <p>今後も実習期間・実習時間の短縮をせざるを得ない状況も考えられるため、学内実習で実施可能な技術、実施できない技術を明確にして、学生の学びを支援できるようにしていきたい。</p>

学校関係者評価委員の評価	現状と課題
<p>3) コロナ禍で、精神看護学実習をどのように学内実習が行われたのかと思っていた。しかし、本日のプレゼンテーションを聞いて安心できた。</p>	<p>■精神看護学実習では、臨床で多く関わる事例を用いて演習等を実施し、学生が様々な状況における看護を考えるように工夫をした。本日の学内実習のプレゼンテーションにより安心したというご意見は、本校にとって勇気づけられた。</p> <p>今後も臨地実習と同様、実習目標が達成できるように学内実習の方法を検討していく。</p>
<p>4) 新人看護師の状況から、コミュニケーション能力が低下しているように感じる。臨床現場で技術面は出来るようになるが、自らの考えを伝えられないことが離職の原因になっていると思う。カリキュラムにおいては、コミュニケーションの強化が必要である。</p>	<p>■臨地実習は、さまざまな場面で、「報告・連絡・相談」が必要になるため、実習オリエンテーションや指導場面においてコミュニケーションを強化している。また、看護の対象理解には、「コミュニケーション技術」は欠かすことができない。学生のコミュニケーション能力が低下しているとのこと指摘があることも本校としては真摯に受け止めていきたい。</p> <p>第5次カリキュラム改正の重点事項の1つにも「コミュニケーション能力の強化」を掲げている。今後もコミュニケーション能力を培う内容を検討していきたいと考える。</p>
<p>5) コロナ禍で、学内実習となり実際の患者と関わる時間が少ない状況になった。患者と関わることで学生が感じる心の動きなど学内実習では学べないことがあったのではないかと。4月から新人を受け入れる際には問題になると考える。</p>	<p>■ご指摘のようにコロナ禍で学内実習となったことにより、臨地で患者と関わる時間が減少している。この状況下で来春4月より新人看護師となる学生自身も不安を抱いていると考えられる。</p> <p>学生が「人として」「社会人として」自分自身の課題に気づけるような関わりを教職員が指導・助言できる指導体制を強化していきたい。</p>
<p>6) 講義を担当する中で、学生がチームで何かを作り上げることができない状況があった。また、リーダーの役割が決められない場面があった。自発的に自分たちでできるとよいと思う。何が必要か自分で考えられるように訓練をして力をつけていく必要がある。3年間で終わりではなく、社会人となってからも力をつけていく必要がある。</p>	<p>■自ら学び、考え行動できる学生を育てたいと考えている。</p> <p>これらの考えは、専門職業人を目指す者にとっての資質でもあるため、今後も指導を強化していきたい。</p>
<p>7) 生活指導をお願いしたい。</p>	<p>■本校では、「指導はタイムリーに」、教員として「できること」と「できないこと」を学生にはっきり伝えるなど、指導時の申し合わせ事項を掲げている。</p> <p>学生は、すべて学びの途上にいることを念頭におき、今後も教職員が同じ視点を持ち指導を強化していく。</p>

5. 学校関係者評価委員の総評

<p>コロナ禍で、しっかりと教育をしていると思います。</p> <p>今後、学生を教育するなかで「人間力」「コミュニケーション能力」「一般常識」について強化する必要があります。これらの教育をすることで、社会人として大切になる基礎的な力が身につくとともに、離職防止にもつながると考えます。</p>
